

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2373200472		
法人名	社会福祉法人 せんねん村		
事業所名	せんねん村グループホーム矢曾根せんりょう まんりょう(せんりょう)		
所在地	愛知県西尾市矢曾根蓮雲寺74		
自己評価作成日	平成24年12月31日	評価結果市町村受理日	平成25年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2373200472_00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2373200472_00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル2階
訪問調査日	平成25年2月20日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

○建物は木材をふんだんに使用し、昔ながらの長屋を感じさせられる面影があります。周辺には田畑や、商店があり、地域の方と触れ合いながら、地域の中での暮らしを続けられる環境です。○法人の理念『こころのびのび・からだいきいき・いのちきらきら』をもとに一人一人の個性を尊重しながら『今日も一日良い日でした』と言っていたようなサービスを目指しています。○認知症ケアマッピングの手法を取り入れ、認知症を持つ人の心に寄り添えるケア、できることを伸ばすケアを目指しています。○スタッフに対しても各種研修、メンタルケア、目標制度などを取り入れ、やりがいを持って働ける環境作りを目指しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

広い敷地内に老人ホーム、ショートステイが併設されており、それぞれの事業所は瓦葺き木造の平屋建てで、どっしりとして昔の風情を感じる。せんりょう、まんりょうをつなぐサンデッキはバーベキューや流しそうめんなど季節行事を通して入居者の生活の潤いの場となっている。運営推進会議は多数の参加者があり、取り組み状況、情報交換、災害対策などが活発に評議され運営に反映している。防火管理委員会を中心に災害に対して活動的な取り組みをしている。認知症ケアマッピングの手法、24hシートの活用、ボイスメールでの申し送り等を取り入れ入居者各々の自立支援と日常生活を楽しく過ごしてもらるように取り組んでいる。「こころのびのび・からだいきいき・いのちきらきら」とする理念のごとく入居者と職員は、楽しく和やかに過ごしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	部署目標を立てスタッフ全てが意識し周知している、常に意識出来る様に掲示物など啓発している意味が伝わるように毎月の部署ミーティングで説明を行なっている	理念はだれにでも見ていただけるように玄関等に掲示されている。部署目標が立てられ、ミーティングで説明したり、参考資料の配布や理念の穴抜け問題解き等、職員への意識づけをしている。ホームのケアの姿勢がホーム便りにも記載され、家族に伝えられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市町村、学区などの催し物へ参加したり、毎日の散歩など近所の方へ顔見知りが増え交流が深まっている	町内会に加入している。地域のゴミ捨てやお祭り、保育園児との交流会、防災訓練等への参加をしている。ホームのイベント案内は回覧板で行い、近隣の方の参加がある。近所付き合いや住民との交流を積極的に図り地域の一員として取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の行事、商店の催しなどに参加し地域との交流を図っている、毎日の散歩、回覧板など近所の方とも顔馴染みの関係ができています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会会長、民生委員、長寿課、ご家族が参加し意見交換を行なうことができていますが、今年度より(市役所)年3回金曜日に開催している為、その月にはご家族の参加が少ない	2か月に1回入居者、家族、町内会長、民生委員、市役所、地域包括支援センター、介護相談員6名～15名参加で開催されている。開催曜日を考慮し会議メンバーの意見の把握に努めている。活動報告はスライドを活用したり、災害対策の情報交換等がされて運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月介護相談員さんが来所し、利用者さんの相談に聞いている。職員も生活の中で利用者の悩みを伺える時間を取り配慮している	窓口に出向いたり、メールや電話で相談をし、助言や指導を受けている。運営推進会議ではホームの取り組み状況を伝える等協力関係を積極的に築いている。研修や講習会等の情報、各種ボランティアも受けている。介護相談員は入居者とは馴染みの関係になつてる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	部署目標で実践の勉強会を毎月開催している。日中は玄関、窓その他の出入り口は開放しており利用者さんは自由に屋外へ出かけている	部署目標として毎月のミーティングで勉強会を実施している。せんねん村学習会も月1回あり職員の共有認識を図っている。入居者が外出しそうな様子を察知したら一緒について行く等、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者に対する支援が身体的、精神的などの虐待につながっていないか、不安な場合は他の職員に質問しながらより良いケアにつなげようと努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については個々に勉強しているが、対応については管理者がしている。全ての職員に周知できる様部署目標に挙げて取り組んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前、入所後にも説明を行い家族の不安に対応している。契約に関する事は管理者が対応しているので他の職員は知識が不足している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス担当者会議には全ての家族が毎回参加して下さり、意見、要望を頂き運営に反映している	入居者からは日々のケアの中から意見要望を伺い、家族からは面会時や行事、会議に参加の折聞いている。意見ボックスを常設し、運営に反映している。ホーム便りには日常の様子を記載し、家族との繋がりを大切にして意見要望が気軽に表せるように配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の部署ミーティングで職員間の意見交換、疑問や発言できる場がある。管理者は常に現場のシフトに入り職員とも相談、意見を求め易い環境が整っている	部署ミーティングや個人面談を行い自由に意見交換がされている。管理者は常に職員と共に現場に入り、情報やアイデアを聞き運営に繋げている。村議会での成果発表や自己申告書等を通して意見や提案を出し、職員が働きがいを持ち精力的に取り組めるようにしている。	運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を多く設け、ITシステムを活用し十分に反映する取組をしているが、職員の経験や年齢差、得手不得手等を考慮しながら、より意見が言いやすい環境を整えることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課が年2回、職場の待遇についてのアンケートを年1回取っており要望、などを伝えることができやすい、有休などは職員均等に入れており自分が努力すればやりがいのある職場である		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個々の能力に合わせた研修に参加させたり、毎月法人内の勉強会、部署のミーティング内での勉強会など学ぶ機会を多く与えられている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修、GH協会に加入しており、同業者との交流を行なっている、学習会参加や、外部からの研修者との交流により新たな気付きを得ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相手が話しやすい1対1の場を設けて本人さんとの信頼関係を深めている。入所前に事前説明を行い家族の不安、要望を聞きサービス計画書に盛り込み、家族・利用者さんが安心して利用していただけるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族の要望、困っている事など事前に聞き取り、不安の軽減ができる様に、他の職員と一緒に考え、関係づくりを深められるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に家族の不安、要望などを聞き取りケアサービスに何が必要なのかを盛り込み計画書を作成している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の「できる事」を見つけ出し、一緒に行ったり、昔取った杵柄を活かせる様に支援している。利用者さんに教えて頂く場面も多くある		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られたご家族にはカルテを用いて様子を伝えたり、外出された時は携帯のメールにて写真を送り様子を随時伝えています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所をご家族、利用者さんに伺い、利用者さんの行きたい所に行けるように支援している	美容院、詩吟の勉強会、お墓参り等、入居者の生活習慣を尊重し支援している。何気ない「実家に行きたい」の一声に一緒に出掛ける等、敏速に対応し入居者に安心感を持たせ、馴染みの人や場所の関係が途きれないように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	耳の遠い方には職員が仲介してコミュニケーションが取りやすい様に配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方でも面会に行ったり、ご家族へ連絡したりして関わりを継続している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前にご家族への聞き取りを行ったり、意向についても伺っている。24hシートに沿って利用者さんのできないことができるように支援している	普段のコミュニケーションの中で入居者の思いや意向を聞いている。家族からは来訪の折に伺い、ボイスメールに入力し、情報の共有がされている。個々の24hシートを作成し、ライフレビューブックに沿ってケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、ご本人に生活歴を聞き取り、馴染みの暮らしに近づけるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	以前からのやり方にとらわれなくて、「今」できる事をご本人と見つけていけるようにしている、今までに何をされていたのか生活歴などを家族から聞きとりケアに活かしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のモニタリングチェックを行い、サービスが実施出来ているか確認している。毎月のMTでは実績の報告ケアカンファレンスを行い計画の改善に努めている	毎日のモニタリングチェックでケアサービスの確認をしている。月に1回のミーティングにおいて全員でケアカンファレンスを行い、3ヶ月毎に入居者や家族も参加してサービス担当者会議を開催している。入居者、家族の意向に合わせ、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には日常の様子、受診結果利用者の全ての状態を記入して、情報共有しサービス計画書の反映に活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの提供に関しては、ご家族とも十分に話し合いの場を持ち、ご本人に合ったサービスは何かを皆で検討して必要に応じて変更も行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人内のボランティア、町内会の行事、イベント、ドライブなどに参加している、施設内もフラダンス、踊り歌、大正琴のボランティアが定期的であり楽しみにされている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	伝達用紙を使用して病状、様子など、ご家族から主治医に伝わりやすいようにしている。受診結果も情報共有を行い職員間で周知している	かかりつけ医への受診や必要な診療科目の受診は家族が同行している。受診の連絡は、伝達用紙にホームでの様子や受診結果を記載している。情報はボイスメール(音声メッセージ)で職員に周知している。協力医の往診は月に2回あり適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GHの看護師は週3日の勤務だが、法人の看護師へ連携が取れており、必要に応じて対応してくれる体制が整っている。ご家族への情報も早く伝わり、受診がスムーズに行なわれるようになっていく		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された方には見舞いに行ったり、その方の状態を把握する為に医療機関との連携をとり、早期退院できるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に事前指定書を頂いたり、ご本人の状態が変化すると、カンファレンスを開き必要な支援を検討している	入居時に入居者や家族に「ご利用者事前指定書」を説明して方針を共有している。入居者の状況変化に応じカンファレンスを開き必要な支援の話し合いがされている。看取りの経験があり、職員はその都度振り返り、次のケアに活かしている。年1回看取りの学習会も実施されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えてのファイル、手順書の更新を行い新人へは初期対応についての方法等を伝え実行できるようにロールプレー等を実施している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回の自主点検、町内会の防災訓練、3施設合同の年間防災計画など、毎月防火管理委員会を行い検討し、万が一に備えて訓練している	年2回、3施設合同の避難訓練を実施している。防火管理委員会ではもくもくハウス体験や職員教育訓練、地域向けの防災新聞発行等積極的に取り組んでいる。災害用備蓄品は水、食料、オムツ、バット等5日分のほか、長期待機に備え職員の雨具、衣類も用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る前は必ずドアをノックしてから入るよう に心がけている。また、他の利用者さんの前で利 用者さんの情報は言わないようにする。記録は 名前で記入しないでイニシャルで記入している	部署目標で一人ひとりの人格を尊重し誇りやプ ライバシーを損ねないケアに取り組んでいる。トイレ 誘導は、単刀直入に言うのではなく、「おはようご ざいます」など挨拶の言葉かけをして、周りの方に 気遣い、さりげなく声掛けをする等の配慮がされて いる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	ご利用者の訴えを時間を掛けて聞き、その内容 を家族へ伝えている。また利用者さんが選択し やすく、声掛けは〇〇していただけますか？ と行なっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが個人個人のペースに合わ せて食事を提供したり、外出したり出来るように 支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	メイクされている方には化粧品を一緒に購入し たり、自分で衣類を選び易いように居室のレイア ウトを行なっている。ポタン、汚れのチェック、衣類 のほころびなど確認し直している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	献立決めは利用者さんをお願いしている。当日 料理本、広告を見ながら食べたい物を決めれる ように配慮している	入居者は職員と共に広告や料理本から献立を決 め、買い物や調理等を行っている。下膳は器を重 ねて運んだり、歩行器にかごを取り付けて運ぶな ど個々に工夫をしている。茶碗洗いも慣れた手つ きで行い入居者の力が発揮されている。テー ブルを囲んで職員も一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	夜間の水分補給用にペットボトルを用意したり、 お茶は毎食時、散歩後、入浴後、買物後の水分 補給を行なっている。水分摂取の少ない方には ポカリゼリーなどその方にあった水分補給を提供 している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後の口腔ケアの声掛け、必要な方へは職員 が側で見守り、一つひとつ声掛けを行う、義歯の 合わない方へは協力医をお願いして義歯の調整 を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄に合わせてトイレへ案内したり、チェック表を基に時間帯を見ながら案内を行なっている。言葉にされない方へは席を立たれたりその方の様子を見ながら案内のタイミングを見ている	個々の排泄チェック表を基に排泄パターンに合わせてトイレ誘導がされている。失敗された時は耳元でそっと声掛けをしてお風呂へお連れする等、羞恥心や不安を軽減するような配慮がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食時の味噌汁、お茶、玄米、乳酸飲料の提供、便秘気味の方には起床時の冷たい牛乳等提供し改善に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望に添えるように希望される時間に入浴していただいている。毎日入りたい方へも入浴できるように支援している	浴室、脱衣室は温かくスッキリとしている。好きな時間にお湯を張り、入浴をしている。拒む方には少し時間を置いたり、気の合う方と一緒に入ってもらう等工夫をしている。隣のショートステイ矢曾根には露天風呂があり、もらい湯の楽しみもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜眠れない方には一緒にお茶を飲んだり、話をしたり不安な気持ちをやらせてから入眠できるようにしている。昼夜逆転にならないように日中の活動(外出・イベント)などに参加して体を動かしていただき安眠できる支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者さんが服用している薬を職員一人一人が薬の効能、副作用について学んでいる。毎回の服用には手順書を基に実施しており事故の防止に職員全員で努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所前に、ご家族へ聞き取りをして馴染みの場所、利用者さんの行きたいところなどへ出かけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、朝食後の散歩に出かけることが日課になっている。ドライブ、馴染みの場所、誕生日外出など特別な日も楽しんでいただけるように支援している	花見やイチョウ狩り、紅葉狩り等、季節ごとに全員で外出をしている。温泉には外食も兼ねて家族も一緒に出掛けている。お墓参りや実家、習い事等、入居者の意向に沿った個別外出も支援している。外出先からは入居者の様子を携帯メールで家族に送信がされている。ホームの広い外周を日々、車いすを押しながら夫婦で散歩をする光景も見られる	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎日の買い物、ヤクルトの支払いなど場面によって利用者さんができる事を提供している。個々で財布を管理されている方もみえ、買物時は自分で支払いを行なっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム便りは毎月郵送している。また個別に手紙を出したり、電話を掛けたりと随時家族との連絡が取れるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分は利用者さんが使用しやすいように、使い方をシールなどで表示。光はロールスクリーンなどで利用者さんが自由に調整を行なっている。トイレの汚れに配慮できるようにチェックシートを活用しこまめな掃除に心がけている	事業所内は木造ならではの落ち着いた雰囲気を醸し出している。天井が吹き抜けでより広さを感じる。採光や音にもこまやかに配慮がされている。入居者同士の関係や個性を考え席決めにも気配りがあり、気兼ねのない居心地の良い空間づくりがされている。コーナーのソファ空間にテレビや雑誌、新聞、花などがあり家庭の応接室を感じさせる。せんりょう・まんりょうの各ユニットの特徴を出し、和やかに談話を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間、食堂、居室等どこでも利用者さんが自由に過ごして頂やすいように区切りがない、一人でテレビを見たりされる、ソファにてカラオケの好きな方は一緒に行なって頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具、寝具等馴染みの物を居室に配置しており、家族と協力しながら心地良い環境を整えている	3室の居室と廊下、トイレがユニットになっており、3か所のユニットの入り口には障子戸があり、戸を開けて閉めることで、帰宅したような気分になれる。居室内には、クローゼットが備え付けられ整然としている。ベットや整理ダンス、テレビ、家族写真など馴染みの物を持ち込み、落ち着いて過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理、盛り付け、片付け等、利用者さんのできる事をしていただけるように支援している。使用しやすい道具なども準備して麻痺のある方でもできる事を増やしている		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373200472		
法人名	社会福祉法人 せんねん村		
事業所名	せんねん村グループホーム 矢曾根せんりょう まんりょう(まんりょう)		
所在地	愛知県西尾市矢曾根町蓮雲寺74番地		
自己評価作成日	平成25年1月10日	評価結果市町村受理日	平成25年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JieyosyoCd=2373200472-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JieyosyoCd=2373200472-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル2階
訪問調査日	平成25年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○建物や木材をふんだんに使用し、昔ながらの長屋を感じさせられる面影があります。周辺には田畑や、商店があり、地域の方と触れ合いながら、地域の中での暮らしを続けられる環境です。○法人の理念『こころのびのび・からだいきいき・いのちきらきら』をもとに一人一人の個性を尊重しながら『今日も一日良い日でした』と言っていたりするようなサービスを目指しています。○認知症ケアマッピングの手法を取り入れ、認知症を持つ人の心に寄り添えるケア、できることを伸ばすケアを目指しています。○スタッフに対しても各種研修、メンタルケア、目標制度などを取り入れ、やりがいを持って働ける環境作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目につく場所に掲示してある。また、部署のミーティングなどで、「理念について」「求められる職員」について等の参考資料を配布している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩やゴミ捨て、回覧版、地域のお祭りや防災訓練などのイベントに参加している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生の福祉体験を受け入れている。また、回覧版で、イベントのお誘いをしたり、機関誌のせんねん物語を回覧していただいたり、地域のイベントと一緒に参加することで理解を得ていただけるよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みや活動報告をしている。いただいた意見は、取り入れるようにしており、職員が付けている名札もご家族からの提案です		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、必ず参加していただき、アドバイスいただいている。また運営に関して不明な点は、市役所に訪れている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	部署のミーティングで、身体拘束についての勉強会を行なった。日中は、施錠せず対応している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	部署のミーティングで、虐待についての勉強会を実施予定。また虐待を発見したら、通報する義務があるため、努めていきます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方が申し込みをされたが、まだまだ知識が不十分。これから、勉強していきます		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明している。料金的な説明も受け、特養に移る方もみえたり、今後の不安について相談をされるご家族もみえる		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の会話の中で要望を伺ったり、運営推進会議での意見や、玄関の意見ボックスを設けて意見を聞くようにしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、各部署のミーティングや法人全体の会議がある。比較的自由に提案し、反映されている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	6ヶ月ごとの個人目標を立て、取り組んでいる成果も、賞与に反映されている。また年に1回、自己申告書があり、やりがいや職場環境について記入するものがある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数に応じて、法人内外の研修の機会がある。また、法人主催の学習会が月1回開催されている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修で交流できる機会がある。今後は、GH職員の相互訪問ができるような機会を持ちたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に得た情報と、入居されてから本人に伺って得た情報をケアに反映するよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居されてからの本人の様子や、ご家族が不安に思っていることについて、面会や電話、メール、ホーム便りなどでご家族に伝えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容によっては、他サービスも案内するなどしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節ごとの風習など、利用者さんに教えていただいている。調理、洗濯、掃除など、できることは一緒に行っているが、まだ職員主体になっている部分も多い		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアで悩んでいる時などは、ご家族にも相談し、一緒に解決に結びつけたりしている。また、外出・外泊の協力を得たり、イベントにお誘いし、参加していただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人・ご家族に伺いながら、馴染みの人・場所との関係を継続できるよう努めている。詩吟の会や、お墓参りや自宅へ行くなど行っている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士が関われるよう座席の配慮、また職員が間に入って仲介している。また、できないことを他利用者がお手伝いしてあえる関係性も築いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移動された方を訪問したり、亡くなられた方のお墓参りに行ったことがある。経過のフォローや相談などは、今までにない		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族に伺い、24hシートに反映している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者総合台帳にて、GH入居に至った経緯を把握している。また、生活歴や暮らし方などは、24hシートやライフレビューブックを作成し、情報共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24hシート(毎日の日課、本人・家族の要望、サポートが必要な部分)を作成し、活用している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケアカンファレンスを開催し、モニタリングを行なっている。それに基づいて、3ヶ月に1回のサービス担当者会議を行って		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フォーカスチャータインクを活用し、うまくいったケア、いかなかったケアを記録に残すようにしている。しかし、ケアプランに活かすきれおらず、書だけの記録になっているのも現状。情報は、ボイスメール機能を使って共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお店、ボランティアさん受け入れ、地域の詩吟教室に通うなど、行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の希望を伺って、今までのかかりつけ医かグループホームでの往診かを選んでいただいている。受診時は、受診から受診までの様子を記載した用紙をご家族にお渡しして主治医に伝えていただいている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの看護師以外にも、法人の看護師とも情報共有し、随時相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、こまめに情報収集を行っている。また地域病院の医療連携会議に出席している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態に応じて、特別養護老人ホームに入所したり、グループホームで看取りを行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時に確認している。その後は、定期的には実施できていないが、起こりうるリスクがあると考えられる時に、手順書を各自で確認するよう呼びかけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回防火管理委員会を開催し、避難訓練や職員の教育訓練(もくもくハウス、起震車など)を実施している。回覧版で案内をしているが、今のところ参加はない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不快な想いをさせないように心掛けている。 言葉遣いについては、まだ課題である		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんが決定できるような声掛けに心掛けているが、まだ職員が決めてしまっているところもあり課題である		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の出勤職員で、臨機応変に対応している。また、地域のイベントにアンテナを張り、出かけることも多い		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面所にはヘアブラシを置いて利用している。職員の服装や身だしなみを誉めてくださる利用者さんもみえ、おしゃれについてのコミュニケーションも図っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立決め、調理、配膳、片付けにおいて、利用者さんと一緒に行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	品目が偏らないように、全体のバランスを考えている。また水分が不足がちにならないよう配慮している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシやくるりなブラシを使用し、行っている。利用者さんによっては、夕食後のみで、毎食後行えていないので取り組んでいます		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々でチェック表を活用し、利用者さんの様子や排泄パターンをみて、トイレの案内を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食のごはんに玄米を混ぜて提供している。また個々で、バナナや牛乳を提供したり、程度な運動(買物や散歩など)を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間や曜日に決まりはなく、個別で対応している。朝、昼、夜と対応している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起きる時間、寝る時間は、個々によって違う。また昼寝する方もみえる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情書で確認している。また現在、毎月内服に関するプリントを実施し、利用者さん個々が服用している作用・副作用を勉強している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫や、今まで読んでいた本を提供する、きなこをかけてごはんを食べるなど、自宅にいたときと同じようにしたいと考えている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者さんのなじみの場所や、親戚の家や、コンサート、お墓参りなどを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて個人でお金を管理している方もみえ、買物時にあんぱんなど購入している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、電話している。また、遠くの娘さんなどに、定期的の手紙を出している方もみえる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音が不快にならないよう、TVの音量など気をつけている。フローアは、混乱なくすごせるように利用者さんに応じて貼り紙をしたり、季節の飾りつけをしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、リビング、居室があり、仲の良い利用者さん同士を案内したりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたタンス・布団など持ち込んでいただいております、仏壇を持ち込んでみえる方もある		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやタンスなど、大きな字で貼り紙がしてあり、利用者さんが見やすくしている		